

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

散歩時に園周辺で見つける花の色に興味を持つ子が多く、園で過ごす中で興味を持った対象物が何色なのかを質問する子どもが多いため、単色での色の違いや色が混ざったときに変化の様子、色水を固めたらどのような変化が起きるのかなど、子どもたちの興味を広げていきたいと思い設定。

2. 活動スケジュール

春 戸外に咲く花を見つけ、色の違いに気が付く
夏 色水遊びを通して、液体だけではなく寒天や氷を使用し、変化を楽しむ
秋 紅葉が始まり葉の色の移り変わりに気が付く

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵の具、寒天、製氷皿を準備（園内にあったものを使用）
職員同士で戸外の自然物（花や木々の葉の色の変化）の情報を共有
興味を持ったタイミングを逃さないように、写真を撮ったり子どもたちの様子を共有するミーティングの時間を設けた

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

春…事前に花が咲いている公園を見つけておき、積極的に戸外に出かけた。
夏…色水遊びから始め、寒天遊び、製氷皿を使用しての氷遊び。氷は両手で持つサイズも作成したり、溶ける様子も楽しんだ。
秋…紅葉が始まったころ公園に行き、色の違いを観察。同じ色の葉を手を持ちたり、違う色を見つけ並べる子もいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

春…公園内や散歩中に花を見つけると「ん、ん」と指さし、保育者が「赤いチューリップ」と伝えるとじっと見つめたり、花と同じ色を見つけると嬉しそうに周りに教えようとしていた。
夏…初めは単色で色水を楽しんでいたが、2色を混ぜると色が変わることに気がついたのか、複数の色を混ぜるようになった。また、寒天は複数の色が混ざらなかつたため、どのようにしたら混ざるのか考え細かく切って確認する子もいた。大きな氷が小さくなっていくこと行きが付き子もいた。
秋…散歩中に「きいろ」「みどり」と葉の色の違いを言葉にする子もいた。公園で同じ色の葉を並べたり、違う色を見つけ保育者に教える子もいた。

<写真>



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めは色を言葉で伝えられる子は少なく、職員が色を伝えていた。
どんな色が好きの歌やEnglish timeでの色の学びを通して、自然と色への興味関心が増していった。
活動の中で特に感動したのは、寒天を細かくして色を混ぜてみようとする姿だった。「どうやったら混ざるか」を自分で考え、実践していく姿を見ることができた。